

## 厚生常任委員会

委員9名は4月15日から3日間、愛知県北名古屋市と三重県名張市を視察しました。

**北名古屋市** 名古屋市のベツトタウンとして発展を続け、平成18年に2町が合併し誕生した人口8万人のまちです。

◆思い出ふれあい事業「回想法」◆ 合併前の平成14年度から認知症予防対策として実施しています。内容は欧米の治療法に医師の助言を加えたものです。

資料館にある昔懐かしい生活用具の中から、氷で冷やす冷蔵庫や荷台の大きな自転車など数種を手に取りながら、毎週1回、10人ほどのグループで「懐かしいね」な



思い出ふれあい事業の視察風景

どと昔の記憶をよみがえらせ、いきいきと思いを語り合ってもらうものです。

介護予防の取り組みは、この自治体も、財政難に苦慮しながら創意工夫をしています。北名古屋市では横手市の地域市民会議にあたる地域委員会が核になり、まちづくりの専門部会に位置づけている点が参考になりました。

**名張市** 三重県の西部に位置し、人口8万人で山野や溪谷などの自然に恵まれた観光都市です。

◆まちの保健室◆ 公民館など市内14カ所に、専門職の嘱託職員を2名ずつ配置し、それぞれに10カ所程度のサロンを設置しています。

民生児童委員・市民のボランティア・行政が協働で、子どもから高齢者まで気軽に集えるように、キメ細かな活動支援をしています。ここでは様々な困りごと相談や、配食サービスの段取りも手がけ、地域包括支援センターが業務を統括しています。

運営にあたっては、総合的な会議に加え個々のケースについての検討会も行っており、庁内での連携が確立されていることが、横手市の学ぶべき課題だと認識してきました。

## 産業経済常任委員会

委員6名は、4月15日から17日まで、山口県の宇部市と山口市を視察しました。

**宇部市** 人口約17万人で、瀬戸内海に面し、宇部興産をはじめとする、県内有数の工業都市です。

◆ブランディングプラン◆ 全国的に地域ブランドへの取組みが活発な中、「まち」そのものをブランド化してしまおうと、平成20年4月に総合政策部内にブランド戦略室を設置しました。

「宇部ってオモシロイ」をコンセプトに、デザインや環境・観光・文化・芸術など網羅的に戦略を立て、予算を極力抑えながら活動を進めています。また、季刊誌で活動や成果を、市内外へ情報発信をしています。さらに、街角の彫刻のライトアップなど、オモシロい所に人が集まってくるとの発想で、事業が展開されています。人口の減少と少子高齢化が加速する横手市でも、「選ばれるまち」になるためのブランディングをどうするか、将来の課題です。

**山口市** 人口約19万人で、平成17年10月に1市4町が合併して誕生しました。



山口市での視察風景

◆食料・農業・農業振興プラン◆ 基本目標は、未来に継承できる農業づくり・親しみのある食と農の関係づくり・魅力と活気にあふれる農村づくりとしています。

『お野さい大すき』という手づくりの絵本で、子どもたちに身近な食育を進めるなど、プランに基づいた具体的な事業展開がはじまっています。また、朝市などの直売所を整備・充実し、多くの小規模農家の育成・支援にも努めています。

慌ただしく過ぎる日々のなか、便利で手軽なものを求めがちですが、ちょっと立ち止まって地元朝市に出かけてみよう。そんな気持ちにかられた視察でした。